

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師
加瀬 政美

【第5号】 小・中学校向けバージョン

★「音読」は大事とされ、授業でもよく行われています。感覚的には、指導者は誰でもその大切さはわかっています。しかし、「先生、なんで声出して読まなくちゃいけないんですか？」って聞かれたら、なんて答えますか？ —これが、学習者が納得できるような答えをできる教員になりたいですね。—

結論からいいます。それは、「**速読力**をつけるためのもの

だからです。と私なら説得します。もちろん、「音読」が大切である理由なんてたくさんあります。英語を声に出して読むのは、非常に効果的な練習法で、特に英語の語順どおりに意味を解釈する力がつかからです。

例) I don't think she was responsible for what happened yesterday.

この文を日本語にしたらどうなりますか？

「私は、昨日起こったことに彼女は責任があるなんて思わない。」です。もっと日本人が好む表現だと、「昨日起きたことに彼女は責任がないと思う。」です。いずれにしても、これらの日本語訳は、音読中にはできないですよ。このような指導の方法が、リスニングやリーディングの向上の足枷になっているんです。綺麗な日本語でないと○をもらえない、そこにこだわると英語理解度は大した差がないのに、ちょっとした日本語の言い回しのよさで、「英語ができる」と褒められてしまう。それは、英語じゃなく、「日本語ができるね」じゃないかなんて思うことないですか？

さて、「音読は速読に効果あり」ですから、この文は、こう解決していくことが理想です。「思わないねー彼女が責任あったってー(何に?)ー起こったことねー昨日」黙読していると、日本語に訳してしまいがち、でも音読していると日本語に訳す暇がなく、英語の語順どおり、左から右へ読まざるを得ません。このように「音読」が「速読力」をつけるのに効果的というのは、音読を繰り返すことで英語の語順どおりに意味を解釈できるようになり、結果として日本語に訳しながら解釈するという悪い癖が矯正されるからです。初見の英文よりも、一度理解した英文を仕上げの意味で音読させる方が効果的です。初見の英文は、どうしても精読の箇所もありますから、授業のLessonやPartの最後に音読させてから、次に進む。是非実践してみてください。

さらに、「大きな声で音読してください」と先生がいます。「大きな声」という代わりに、「自分の耳に、はっきりとリズムと音の強さと弱さを意識して聞こえるように」と言うただけで、結果的に大きな声になって聞こえてきます。指導によって変容するとはこのことですよね。

